

平成 31 年度 (2019)

国語 (第一回)

		得点率 (%)			得点率 (%)
1 説明文	問1	92.2	2 物語文	問1	60.9
	問2	48.5		問2	90.5
	問3	59.8		問3	87.1
	問4	17.6		問4	40.2
	問5	23.7		問5	50.4
	問6	92.2		問6	78.8
	問7	77.8		問7	86.1
	問8	68.6		問8	74.8

平均点 総合 63 点
2科 54 点
4科 64 点
最高点 2科 74 点
4科 88 点
最低点 2科 31 点
4科 24 点

1 出典：安田正美『単位は進化する 究極の精度をめざして』

問一 おおむねできていました。「定性的」「定量的」は小学生にとっては難しい言葉ですが、文脈を追えば理解できるように出題しています。

問二 「デジタル」と「アナログ」の性質を二つに分けて説明できなかった解答が多数見られました。

問三 解答を作成するにあたって必要な要素を本文から見つけそれを再編成して解答文にする必要があります。この設問では本文の抜き出しですませてしまった答案が数多くみられ、結果的に部分点しか取れなかった例が目立ちました。

問四 味の単位化とは何かを説明する必要がありました。味という感覚を数値で表すにはどうすればよいのかを説明することになります。本文にはそのまま引用できる箇所がないので内容をまとめなおす必要があります。今回の出題の中ではもっとも正解率が低い設問でした。

問五 「制度」という言葉自体は小学生でもよく聞く言葉です。それがこの文章の中では何を意味しているのかを読み解く必要があります。現代文は同じ意味の言葉が表現を変えな

がら繰り返し使う傾向があります。それらの対応関係を明らかにすることがこの種の問題を解くカギです。これも正解率が低い問題でした。

問六 語彙を補充する問題です。正解率は非常に高い問題でした。

問七 漢字の書き取り問題です。よくできていました。

問八 本文の内容に合うものを探す問題です。本文では述べられていないことや、内容を限定しすぎているものなどを除外することで正解を選びます。

1 出典：知野みさき『鈴の神さま』

問一 「複雑」を相反する感情の混ざり合ったものと考え、それらを説明することが求められます。その点の説明が不足している解答が大半でした。

問二 「目をほそめる」の慣用表現の意味が分かれば容易な問題でした。

問三 成句に関わる問題です。ほとんどの答案で満点でした。

問四 登場人物の感情の変化の根拠を説明する問題です。解答は本文中の表現を組み合わせただけでできます。必要な事項が抜けたため部分減点をした答案が多数ありました。

問五 小説の途中で時間が遡ることを理解することが解答の条件です。また「忍び笑い」がこっそりと笑うことであることを理解する必要があります。

問六 「いい」という多義語を文脈の中で理解する必要がありました。おおむねできていました。

問七 語句問題です。正解率が高く、よく準備ができていたことがうかがえました。

問八 本文の内容に合うものを探す問題です。登場人物の人間関係を整理して考えれば正解が選べます。